

公開シンポジウム「国土のグランドデザイン 2050 の意義と課題」

1. 主 催：日本学術会議地域研究委員会人文・経済地理学分科会
2. 後 援：地理学連携機構、日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会
3. 日 時：平成 30 年 8 月 27 日（月）13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 開催趣旨：2014 年 3 月に公表された「国土のグランドデザイン 2050」は、対流促進型国土の形成を掲げるなど、国土政策の長期的な方向を提示してきた。その後、地方創生施策が打ち出されるとともに、「第 4 次産業革命」「Society5.0」など、新たな未来社会像が展望されるなかで、国土政策のあり方を改めて再検討する必要があるように思われる。本シンポジウムではさまざまな角度からこれまでの国土政策の意義と課題を論じたい。
6. 次 第：
 - 司会 吉田 道代（日本学術会議連携会員、和歌山大学観光学部教授）
 - 趣旨説明 松原 宏（日本学術会議第 1 部会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）
 - 13：10～13：50
基調講演 大西 隆（日本学術会議元会長、豊橋技術科学大学学長）：
国土のグランドデザイン 2050 の意義と課題
 - 14：00～15：40
報告 1 岡橋 秀典（日本学術会議連携会員、奈良大学文学部教授）：
森林と国土保全―「緑の列島」はサステナブルか
 - 報告 2 小田 宏信（日本学術会議連携会員、成蹊大学経済学部教授）：サテライト
オフィス誘致を通じた地域活性化―「徳島美波モデル」の可能性―
 - 報告 3 中澤 高志（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）：
地方圏における公共セクターの雇用と若者
 - 報告 4 水内 俊雄（日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院文学研究科教授）：
仕事とハウジングをセットにしたセーフティネット構想
 - 報告 5 車 相龍（長崎県立大学公共政策学科教授）：
韓国における国土政策の行方―第 5 次国土総合計画樹立の主要論点と展望
- 15：50～16：05 総括コメント 矢田俊文（北九州市立大学元学長）
- 16：05～16：50 総合討論
- 閉会の辞 石川 義孝（日本学術会議第 1 部会員、帝京大学経済学部教授）